

『庄内っこ日和』

令和3年10月11日

庄内こどもの杜幼稚園 教頭 岩崎巧

はじめに…

保護者の皆様いつも当幼稚園のもりのこっこにご理解、ご協力頂き誠にありがとうございます。

この『庄内っこ日和』は、令和元年度から掲示用として始めた、当幼稚園の園外保育での子ども達や先生の様子を、当学園の理念や方針と重ね合わせながら皆様にお伝えする"ドキュメンテーション"です。

晴れたよい天気という意味もある日和という言葉は、庄内っこの未来を明るく照らしています。このお便りを通して、日々子ども達や先生の様子や当幼稚園の考えを少しでも知って頂けるきっかけとなれば幸いです。今回は、年中組もりのこっこ（秋）の様子をお伝えしたいと思います。

今回のもりのこっこのねらい: 収穫したものを食べることを楽しむ。 秋の自然に触れる。

当幼稚園の「もりの子っこ」とは、「鎮守の杜(もり)の子ども(つまり当学園の子ども)」が、「森の子ども」になるという意味です。

能勢にある野外センターや、能勢の田畑や川、自然豊かな公園には、庄内にはない決して人工的に作り出す事の出来ない自然が溢れています。

そこで子どもは、平常保育時以上に五感をフル活用しながら、四季ごとに活動する経験をします。それが、情操豊かな人間になる大事な活動であると思っております。(庄内の保育の根っこp37参照)

庄内の保育の根っこ



「おかわり100回お味噌汁」

お芋掘りを終えた子ども達は、さつまいも入りの味噌汁と愛情たっぷりの手作りおにぎりをお昼ごはんに食べました。自分達が採ったさつまいもが入っている事で、いつもよりもさらに美味しく感じたのか、「おいしくて、100かいおかわりする!」と言っている子どももいました。

また、裸足になって自然の風やぬくもりを肌でも感じながら、美味しそうにおにぎりを食べる姿もありました。自然の中でしか出来ない食べ方や、収穫物は子どもたちの思い出の宝物に変わっていくと思います。何度も繰り返しこのような経験をする中で、自然の素晴らしさや、食べ物大切さを年下の子どもにも伝えていってくれるのではないのでしょうか。



もりのこっこ年中（秋）

能勢の畑で芋掘りしよう！

みんなで芋掘り

今回のもりのこっこでは、春に自分達で苗植えしたさつまいもが大きくなったので、収穫に行きました。芋掘りをする前に、長いさつまいものつるを見て「腰に巻いてズボンにする。」と言ったり、頭の上に乗せてキャラクターになりきって遊ぶ姿がありました。芋掘りでは、苗をしっかりと引っ張って「うんとこしょどっこいしょ」の掛け声で思いっきりつるを引っ張っていました。繋がった芋が取れると「お芋の家族みたいだな」と喜んでいました。こどもの発想は、無限の可能性を秘めていると感じられる遠足でした。



農家の中川さん